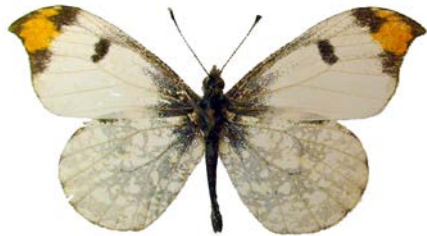


ツマキチョウは属名がギリシャ語の複合語 (*Antho+caris*) 「花を愛するもの」という意味の *Anthocaris* で、日本にはクモツマキチョウという天然記念物指定の高山蝶との2種だけがみられます。近畿地域ではツマキチョウは5-6月に蛹となりそのまま冬を越して早春3月頃にチョウとなって



May 3, 1968 京都市修学院

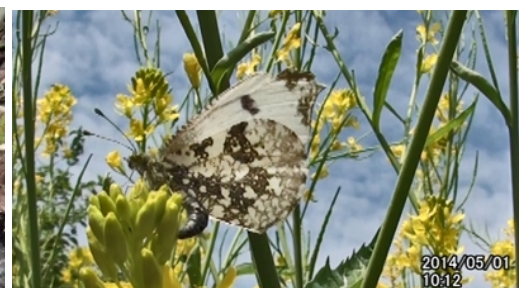
5月中には姿を消す、まさに春だけ活動するチョウです。寒冷地では発生が遅くて北海道で7月半ばにツマキチョウに出会うと季節感がおかしくなります。松波町周

Apr. 5, 1997 山梨釜無川産
クモツマキチョウ♂

辺でまだみたことがありませんが、加古川市志方町の里山周辺では、モンシロチョウなどと一緒に菜の花や、タンポポ、ノバラ、スマレなどの花のあるところで見ることができます。飛翔

時には翅表先端のきれいなオレンジ色の紋が目立たず、多くの人は小さめのモンシロチョウが飛んでいるな、としか認識していません。実は、その飛び方に特徴があって地面から一定の高さを保ちながら小刻みなはばたきでほぼまっすぐに飛ぶので、慣れてくると遠くからでも「ツマキチョウだ」と判別できます。例年、加古川市志方町で幼稚園、小学生の子供たち対象の「チョウ観察会」を開催していますが、ツマキチョウがみられる時期に同伴している親御さんに実物を間近にみせてあげると「こんな愛らしいチョウが身近にいたなんて」と一様におどろいてくれます。ツマキチョウ、クモツマキチョウともに早にはオレンジ紋がなくて♂の方が数段美しく、雌雄の判別は容易です。このチョウの後翅裏には図のような緑のまだら模様があって、菜の花などの

緑葉のあいだにじっと羽を閉じて止まっていると、すぐにはチョウがいるとは分からないみごとなカモフラージュとなります。タテハチョウ類の羽裏の模様が樹肌に似て一種の保護色（隠蔽色ともいいます）として機能しているのと同じ自然の妙です。

*Anthocaris scolymus*
ツマキチョウ2014/05/01
10:12

クモツマキチョウの分布が本州中部地方に限られるのにくらべれば、北海道から対馬、屋久島、種子島を含む九州まで広く分布します。幼虫はアブラナ科のタネツケバナ、イヌガラシ、ハタザオなどを好み、ナズナやハナダイコンも食べるといわれていますが、私はツマキチョウに関しては卵、幼虫、蛹いずれも目にしたことがなく、今後特に注意したいチョウです。

非常に珍しいこととして、1967年に長野県諏訪郡富士見町で野外採集された幼虫からクモツマキチョウとの種間雑種♂が羽化していて、安曇野市にいる私の蝶友がその検証目的で人工的に穂高産ツマキチョウ♂と八ヶ岳産クモツマキチョウ♀とを雑交させ、ユキワリツマキチョウとよばれるきれいな♂の羽化に成功して自然界で雑交がありうることを証明しています。通常、種間雑種は生命力が弱くてほとんど正常に羽化できなく、この検証は画期的な事例です。

Aug. 25, 1981 長野穂高町飼育
by K. Maruyama